

I 実践

1 研究主題「自他を尊重し、思いやりの心をもつ自立した生徒の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では「滑川中学校教育プラン」として、生徒育成の柱に、強く（たくましい体の育成）、豊かに（思いやりの心の育成）、正しく（学力の向上）を掲げ、教師を3つのグループに編成し、教育活動に取り組んでいる。

本年度の心グループが設定しためざす生徒像は、前年度より継続して「自他を尊重し、思いやりの心をもつ自立した生徒」である。そこで「命」をキーワードとして、心の教育を展開することが人権教育の柱になると考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 全校体制での人権教育の展開

イ 命を尊ぶための活動

ウ 道德教育の充実

2 実践事例

(1) 「滑川中学校 命の教育週間」（平成29年3月6日～13日）

ア ねらい

東日本大震災より6年が経過する3月11日を迎えるにあたり、教育活動全体を通して、東日本大震災で命を落とした方々への冥福を祈るとともに、被災者の方々への思いやりの心を育て、家族をはじめ自分を支えてくれている方々への感謝の心と命を尊ぶ心情を育てる。

イ 活動の実際

(ア) 東日本大震災報道写真展（平成29年2月27日～3月24日）

茨城朝日社から提供していただいた報道写真を、被服室前廊下に掲示した。

ねらいは、震災の実態について報道写真を通して見つめ、震災がもたらしたものについて考えることと、東日本大震災から6年が経過した現在、震災を見つめ直し、風化させてはいけない出来事として、再度とらえることとした。

(イ) 命の教育

a 短学活における読み聞かせ（平成29年3月6日～13日）

朝の読書や朝の会、帰りの会で被災者の方々が書いた文章や、新聞・雑誌等のコラムの読み聞かせを行った。

b 卒業式予行練習における命について考える時間

練習終了に際し、1～3学年全員で2日後に3月11日（土）を、ともに迎えることができることを喜び合うとともに、被害に遭われた方々へ心から追悼の意を表した。そして、私たちの生活を支えてくれている多くの方々に感謝し、ここに命があり中学生としての生活が送れていることへの感謝の思いをもつことの重要性を伝えた。

c 始業式や終業式での学校長の講話

夏休みや冬休みなどの長期休業を迎えるにあたって、学校長が「命の大切さ」「生きる喜び」「生きる意義」を全校生徒に伝えた。生徒は、一人一人の命の大切さや、今を生きられることへの喜びや感謝の思いをもつことができた。

d 震災と命をテーマにした授業の展開（1・2学年）

「命の教育週間」の間に、震災と命をテーマにした授業を実践した。

<授業例>

【国語】

- ・震災から6年、今の気持ちを文章化し、話し合う。
- ・被災者の詩や文章から心情を読み取り、話し合う。

【社会】

- ・震災の歴史を調べ、日本人の震災に対する歩みを学ぶ。
- ・日立市の防災対策を調べ、災害に強い町づくりについて話し合う。

【数学】

- ・地震の規模の計算、他地震との比較をする。

【理科】

- ・液状化現象を実験で再現し、液状化の原因について知る。

【英語】

- ・地震と避難に関する言葉を調べ、英語で話し合う。

【学級活動】

- ・ハザードマップから、安全な避難、命を守る方法について考え、話し合う。
- ・避難訓練（地震）の方法について話し合い、学校に提言する。

【道徳】

- ・震災で学んだ人のやさしさ、温かさについて話し合い、どのような心を育てていきたいか考える。
- ・被災者の文章や各種コラムから震災から立ち直ろうとする姿を知り、話し合う。

【総合】

- ・震災の感想を話し合い作文に表す。安全に避難するための方法を考える。

e 情報発信

学校だより、学年だより等各種たよりやホームページを用いて、「命の教育週間」で行った実践を情報発信した。

3 成果

「命の教育週間」において、様々なアプローチで「命」について考える機会をもったが、すぐに目に見える形で成果が表れたとは言えない。その場だけでの理解に終わらせないためにも、日常的に継続した指導を行うことが大切である。継続した指導をすることによって、生徒にとって命があることへの感謝の念が芽生え、東日本大震災などの大災害を想起し、防災への意識も育てることができる。

また、全校体制で取り組むことで、命の教育や人権教育について、教師間で情報交換が行われ、職員の意識の高揚に役立った。

II 今後の課題

- 1 道徳教育や社会科（公民）との連携の強化による指導の工夫。
- 2 命をテーマにした授業のさらなる展開と実践の積み重ね。
- 3 全校授業や集会の活用による指導の工夫と時間の確保。
- 4 震災体験が幼児期にあたる生徒への指導の工夫。

III 人権コーナーの設置について

本校では人権教育部が中心となり、ポスターや人権問題に関するニュース時事なども掲示し、生徒に関心をもたせる工夫をしている。



人権コーナー